

はじめに

新年になり気分も新たにというところで、またもや新型コロナウイルスが流行しております。オミクロン株の重症化率は低いという報告もありますが、基礎疾患がある方にとっては重症化した際は良くないことも起きるようです。また、感染率もこれまでのものと比較して高いようですので、マスクや手洗いなど、個人個人で出来る予防をしていきましょう。

肝硬変とは？

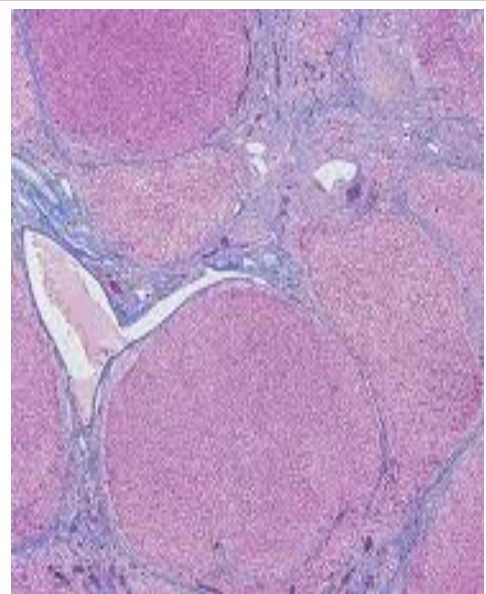
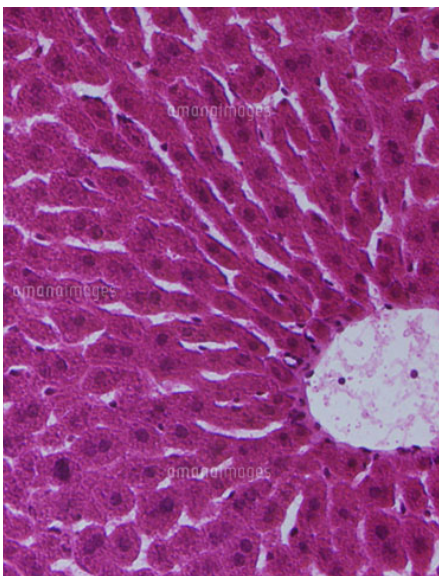
第七回の肝臓大学新聞では、肝硬変とは何かについて取り上げます。

肝臓が硬くなると知っている方もいらっしゃると思いますが、なぜ肝臓が硬くなるのか、硬くなった時の肝臓がどうなっているのかについてお話しします。

肝硬変とは慢性肝疾患が進行した終末像と医学的には定義されますが、ぼんやりとした表現で分かりにくいかと思えます。慢性肝疾患とはとある原因で慢性肝炎が起きている状態です。

慢性肝炎の原因は第一回の肝臓大学新聞で書かれていますのでそちらをご覧ください。

ここで大事なことは、肝臓に炎症が起きること、肝硬変であることは違うのです。皮膚をイメージしてもらえば分かりやすいですが、軽い怪我なら傷跡を残さず治りますが、深い怪我ですと皮膚が引き攣れて治ったり、傷跡が残った状態になります。肝臓でも同じようなことが起こります。肝臓に炎症が起きると、肝臓の細胞が傷付きます。それが一過性のものであればきれいに治りますが、慢性持続的に炎症が続くときれいに治ることができなくなり、傷付いて壊れた肝臓の細胞の部分が線維で置き換わるようになります。慢性肝炎では、肝臓全体に炎症が置きますので、長期間続く炎症では肝臓全体に線維に置き換わった部分が置きます。これが肝硬変と呼ばれる状態です。



上段の図が正常な肝臓の顕微鏡像ですが、肝硬変になると右図のように肝臓の細胞の間に帯状のものが置きます。これが置き換わった線維で、肝臓が硬くなる原因です。線維に置き換わった部分は本来は肝臓に栄養を送る血管が通過していません。

このように肝臓の細胞が壊れて線維性のものに置き換わると、元の正常な状態に戻ることができません。肝硬変になると様々な症状を起したり、肝臓癌の発症率も増大します。まずは最初の原因である慢性肝炎を起ささないよう、肝炎ウイルス検査を受けたり、適正な飲酒量や規則正しい食事・運動を心がけ肝炎を予防していきましょう。